

加美町 中新田の虎舞



中新田の虎舞は、「火伏せ^{ひふせ}の虎舞」とも呼ばれており、毎年4月29日に旧中新田町市街地で行われる初午祭^{はつうまつり}で演じられています。国の選択無形民俗文化財と宮城県無形民俗文化財に指定されています。

虎舞は、約650年前の大崎氏の時代から始められたものと言い伝えられており、それに「風は虎に従う」の故事にならって火伏せの祈願が加えられたものとみられています。中新田地区は風が強く、昔からたびたび大火に見舞われていたことから、住民の防火意識を高める役割を担ってきました。



虎は、地元の小中学生が2人1組となり、頭と尻尾が付いた胴幕を被り、笛と太鼓の囃子に合わせて舞います。舞は「本調子の舞」、「岡崎の舞」、「寝覚めの虎の舞」の三種あり、市街地の各家で舞った後に、大通りや祭典本部の屋根の上で舞います。毎年大勢の見物客が訪れ、賑わいをみせています。